

# ほつかいどう NIE 通信

A cartoon illustration of a blue, rounded head with two antennae-like ears, smiling and holding a yellow book open. The book has the text '第 65 号' (Number 65) on its cover.

発行 北海道 NIE 推進協議会

〒 060-8711 札幌市中央区大通西 3 丁目 6 北海道新聞社内

011-210-5802

FAX 011-210-5826

実践の報告を行うなど、精力的に活動を推進されておりますことに、改めて敬意を表します。

さて、グローバル化や高度情報化など、社会が激しく変化する今日においては、これから訪れる新しい局面への対応に向けて、知識・技能が陳腐化しないよ

は、その基盤となる「生きる力」を育成することが求められています。とりわけ、「確かな学力」の育成に当たっては、基礎



## 確かな学力とNIE

渡島教育局長

成田  
祥介

いて、事実を正確に理解し  
伝達する学習活動や情報を  
分析・評価し、論述する学  
習活動などを重視しております

ます。  
現行の学習指導要領には、各教科の特質に合わせて

り、また、全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）には、新聞記事のリードに必要な事柄を整理して書くという問題が出題されております。

という問題が出題されております。

り、また、全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)には、新聞記事のリードに必要な事柄を整理して書く

成田  
祥介

NIE

て新聞を活用した授業を開き、情報を収集するための読み方、記事から様々な立場の意見を読み取り、自分の考えをもつなどの学習活動を行うことが示されており

成田祥介  
り、また、全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）には、新聞記事のリードに必要な事柄を整理して書くという問題が出題されております。このような折、貴協議会

て新聞を活用した授業を展開し、情報を収集するため  
に読む、記事から様々な立場の意見を読み取り、自分  
の考えをもつなどの学習活動を行うことが示されてお

は、本年度、全道で42校をNIE実践指定校として、新聞を活用し、子どもに「確かな学力」を身に付ける先進的な取り組みを推進し、各地域に成果を発信していることは、大変、意義深いものであります。

今後とも新聞を生きた教材として活用することにより、各教科等の学習活動の充実を図り、子どもの社会で活ける実践的な力の育成を推進する役割を担つていただくことを期待申し上げ、NIE函館・渡島セミナー開催に寄せる言葉とします。

北海道新聞ホームページ「NIE」(www.doshin-nie.com/)でバックナンバーから閲覧できます

①



# 保育の実情 積極的に取材



待機児童に関する新聞記事を活用した「こども学舎」の授業。中央奥が常勤講師の南さん

札幌・こども学舎

当協議会独自の実践指定校になつて3年目。卒業時に保育士資格が得られる東京福祉大通信教育部札幌学習センター「こども学舎」(札幌市西区)は、学生たちが待機児童問題など保育現場のリアルな動きを新聞記事で学んでいる。ほとんどの学生は働いていたり子育て中の女性。実践代表者で、こども学舎常勤講師の南邦彦さん(38)は「限られた時間を有効に使え、文章表現のトレーニングにもなる」とNIE活動が大人にも効果があることを強調する。

(葛西信雄・北海道新聞NIE推進センター委員)

## 待機児童問題記事で学ぶ

新聞は主に、年間30時間り返つた。  
を充てている必修科目「児童家庭福祉」で活用している。

昨年8月、保育士が熟知していなければならない子ども・子育て支援関連3法

## 菅井さんが基調講演

新聞は「情報の原石」

札幌

新聞を学校の授業で効果

的に活用する方法などを考

える公開シンポジウム「新

聞で考える力をはぐくも

う」が6月7日、札幌市北

区の札幌エルプラザで開か

れた。

席上、お天気キャスターでuhbの情報番組「U型テレビ」に出演中の菅井貴子さんが「新聞を読み解くのは面白い」と題して基調講演した。一般財団法人・北九条奨学会が主催した。

講演の中で菅井さんは、「私が新聞を読むようにな



「新聞を通して社会に興味を持つて」と語る菅井さん

報は事実かどうか分かりません。新聞は必ず裏を取るので信用して使える貴重な

菅井さんは新聞が果たす役割を「時代の物差し」「社会の動きと事実が分かる窓」、さらに「情報の原石」などと表現し、「事実からどう興味を持つていくか、どうもつと調べていくか。

た。

菅井さんは新聞が果たす役割を「時代の物差し」「社会の動きと事実が分かる窓」などと表現し、「事実からどう興味を持つていくか、どうもつと調べていくか。

原石をどう磨くかは本当に個々それぞれで、可能性は無限大です」と指摘した。

また、「大学入試や就職試験でも新聞を読んでない」と太刀打ちできない」とした上で、「(将来を担う)子どもたちだからこそ、新聞を通じて社会に興味を持つほしいと思います」と締

められたが、「特定保育所のみ希望し入所していない児童数」(359人)などを含む記述されていない。南さんは「関連3法で保育業界が大きく変わるが、新聞記事が内容把握に大きな役割を果たしてくれた」と振り返った。

**実践校  
リポート**

を紹介する記事(北海道新聞)と、これを受けた札幌市の実情を伝える「保育の質確保に課題」の記事(同)

が成立したが、改訂に数年間を要する教科書にはもちろん記述されていない。南さんは「関連3法で保育業界が大きく変わるが、新聞記事が内容把握に大きな役割を果たしてくれた」と振り返った。

前者の横浜方式について、これは大沢さんらが市役2人と全国ワーストを記録された横浜市が3年間かけてゼロにこぎ着け、その背景に民間企業の保育所事業への参入があつたことなどを

くつた。

こども学舎は2009年4月に開設。国の指定保育士養成施設で、13年度は30歳前後を中心に行なう50代の学生2人が研究発表した。大沢さんは「よく調査所に問い合わせて分かつた数字だ。南さんは「よく調べました。疑問があつたらどうしどし関係機関に聞いてください。取材は学生の特権です」と講評した。

授業では、子どもが犠牲になつた4件の報道記事も紹介。大沢さんは「少子高齢社会では誰もが福祉サービスを利用する普遍化と、困難な問題を抱える人を専門的に支援する専門化という二つの課題の実現が問わ

れます。南さんは「記事を読み込み、ポイントをつかむ。この作業がリポート書きのト書きにも敏感になる」と新聞の有用性を指摘しています。

方など「文章表現」の教材は、論文やリポートの書き幅広い年代の学生200人余りが学んでいます。新聞は北海道新聞生活欄の「いづみ」や各紙の読者欄などに投稿し、採用されるケースも多い。

# 旭教大で初NIE講座



新聞の活用法を道教育大旭川校の学生たちに指導する菊池さん(左)と福澤さん

たいまつは  
君たちに

—アドバイザーの試み—

<上>

日本新聞協会が委嘱する元NIEアドバイザーの菊池安吉さん(55)・旭川市立旭川中校長と、現アドバイザーの福澤秀さん(48)・旭川市立春光台中教頭が7月19日、道教大旭川校で初めてとなるNIE講座を開いた。「新聞活用」が学習指導要領に位置づけられたのに実践教員が増えないジレンマ。解決手段を追い求めた2人が出した結論は、教員養成大学での後継者育成だった。

(葛西信雄)

## 次世代教員の育成に照準

「今年はあと2回講座を開きます。自分が教壇に立ち、教え子と一緒に新聞活動しているイメージを持つて臨んでほしい」

良く通るバリトンが教室中に響き渡った。院生を含め32人が専攻する社会科教育学ゼミ。菊池さんが就活に及んだ。

前半の講師を担当した菊池さんは、10冊余りの文献に当たり、レジュメ「NIE入門編」を用意。学習指導要領が目指す読み解く力は、「目の前で起きた現実、世の中には違った主張がある。こうした情報を伝える新聞を、うまく教材として使うことで身につく」と話した。

後半講師の福澤さんは新聞スクラップ作りを指導したが、こんな経験談も語った。

「君たちも教師になつたら、やりたいことがいっぱいあるはずだ。でも現場は多忙で、理想が高いほど悩みが多い。読み書きの厳しい子もいる。『子どもたちをどうやって指導しよう』。そんな時、新聞っていうのがとても良い教材になる。記事を読んだり、感想を話し合つたりしながら、教え子たちと一緒に成長してい

る」と語った。

## 編集後記

○道具のない大工さんは家を建てるのか。結論的に言うと、落語「大工調べ」の与太郎のように道具箱を取り上げられた大工さんは日本がな一日ぶらぶらするしか術はない。

○「今の若い教師は新聞を読まない以前に新聞を取っていない」。静岡市で開かれたNIE全国大会・パネル討論で、会場の男性からこんな発言が飛び出し、「この現状がNIE普及の妨げになっている」と付け加えた。敷衍すれば道具(新聞)を買わない若い教師が珍しくなっているのだろう。

○当協議会育ちの現職教師によるNIE講座が教員養成大学の道教大旭川校で始まった(4面の特集記事参照)。受講した学生23人のうち新聞購読者は3人だったが、「教師になれたら新聞を教材にした授業を」との意気込みも聞かれた。「その時は給料の中から新聞を購読してNIEをけん引してよ!」。思わず、心中でエールを送ってしまったのだ。(葛)

選んだ男子学生は、用紙に縦線と横線を引いて四つのスペースをつくり、それぞの対角に概要と感想、異なる二つの主張を書き分ける手法で、スクラップにした。小学校教師を目指している大学院生の山沢佳浩さん(22)は、「学部時代、メディアリテラシーの研究をしたことがあるが、どう活用してよいのか不明だった。(講座を)受講して具体的な方法がつかめたような気がする」と笑顔で話した。

菊池さんと福澤さんは、ともに社会科教諭で旭教大OB。今年3月から、ゼミの指導教官、坂井誠亮准教授と情報交換しながら準備を進め、母校で初めてのNIE講座実現にこぎ着けた。

実践教員がなかなか増えず、「面はおろか線にもならず、点にとどまつたま

◇「道内高校新聞ナウ」  
は休みます。